

わくわくホッケー（インドア）ルールガイド

1. 試合時間

試合は、予選リーグと決勝トーナメントともに、前後半なしの7分（場合により5分）とする。

2. 勝敗

決められた時間内で得点を多く取ったチームが勝者となる。予選リーグでは勝ち点を勝者に3点、敗者に0点、引き分け者に1点を与え、勝ち点の多いチームから2チームが決勝トーナメントに進出する。

勝ち点と同じ場合は

- ①カテゴリーが下のチーム
- ②得失点
- ③総得点
- ④じゃんけん

の順番で決定する。トーナメントにおいて引き分けは延長戦を行い、1対1でセンターラインからブリーで開始され、どちらかのチームが得点をあげた時点で競技終了となり、その得点を挙げたチームが試合の勝者となる。

※延長戦はサークルなしで行うため、ロングシュートも得点となる。（チャレンジャー以下は2名）

3. チームの人数・出場登録選手

出場登録選手は、1チーム12名で、チームごとの年齢や経験を考慮し特例が与えられる。

選手は次に示す方法で交代することが出来る。

- ①プレーヤーの交代は、いつでも行うことが出来る。
- ②同時に交代できるプレーヤーの数に制限はなく、何人でも何回（特例あり）でも交代することが出来る。
- ③プレーヤーの交代は、フィールド内にいるプレーヤーがフィールドの外に出た後でなければ許されない。
- ④フィールドへの出入りはアンパイアが認めたエンドラインから行わなければならない。

4. フィールド

- ①フィールドは長方形で、縦30m、横20m程度とし、長い方を「サイドライン」、短い方を「バックライン」と呼ぶ。
- ②バウンドボードはサイドラインとゴールラインを除くバックラインに沿って置かれる。）
- ③バスケットボールの3ポイントラインをサークルとする。

5. 用具

スーパーホッケー用のスティックとボール、ゴール（鳥取県インドアホッケー規定）を使用する。

6. 試合の開始と再開

- ①じゃんけんに勝ったチームが、コートかセンターパスのいずれかを選択できる。
- ②じゃんけんの結果、センターパスを選択したチームのプレーヤーによって試合を開始する。
- ③センターパスは、フィールドの中央で行う。どんな方向にボールをプレイしても構わない。
- ④得点の後には、その得点を入れられた側のチームのプレーヤーによって中央から行われる。

7. ボールがラインを出た場合

- ①ボールが、置いてあるボードを完全に超えた時、ボールはアウト・オブ・プレイ（プレイ中断）になる。
- ②アウト・オブ・プレイ（プレイ中断）になる直前にボールに触れたりプレイしたりしたチームの相手側プレーヤーによってプレイが再開される。
- ③ボールがサイドラインに置いてあるバウンドボードを超えた場合、そのラインを横切った付近から再開される。
- ④ボールがバックラインに置いてあるボードを超えて得点ではない場合、6人制ルールと同様に再開される。
・セルフパスを行なうプレーヤー以外のプレーヤーは、ボールから4m以上離れ、ボールが少なくとも4m以上動かされるか他のプレーヤーに触れられるまでは、サークルに入ることはできない。

8. 得点となる条件

サークル内で、ボールに攻撃側プレーヤーが触れていれば得点が認められる。また、明らかに反則がなければゴールが決まっていたと審判が判断した場合は認定ゴールとする。（PSは実施しない。）

※ただし、未経験者や長くプレイをしていない人もおられるので、審判の裁量で判断する。（同じ規準ではない）

9. 反則

- ①ボールが足に当たったり、スティックをたたくなど、危険な行為は反則とする。（ホッケーのルールに準ずる）
- ②シュート以外で故意にボールを上げる行為は禁止（スクープの禁止）、ボードより高くボールが上がった場合は反則とする。
- ③サークル内の反則については「チャレンジ」を与える。（PCは実施しない）
「チャレンジ」の方法
・チャレンジを取得したプレーヤーが攻撃を行い、チャレンジを取られたプレーヤーが守備を行う。
・チャレンジを行うプレーヤー1（2）名と守備側のプレーヤー1（2）名以外のプレーヤーはすべて、「チャレンジ」を実施するエリアとは反対側のエリアにいなければいけない。※小学生以下は2名
・チャレンジの攻撃をするプレーヤーはサークル中央の4m外側から開始し、守備をするプレーヤーは守るべきゴール前にいなければならない。
・攻撃側がプレーを始めたら、守備側のプレーヤーは動き始めることができるし、反対側エリア内に待機していた両チームのプレーヤーもプレーに参加できる。
・攻撃側のプレーヤーは、4m以上ボールを動かさないとサークルにボールを入れることは出来ない。

10. その他

- ①今大会においては、ヒットストローク、の使用は認めない。対戦相手に合わせた早さのストロークを行うこと。小学生に対し、強いストロークは禁止する。（シュートも含む、審判が判断）
- ②今大会においては、選手のレベル差も大きいので、審判の裁量による判断をすることがあるので、理解しておくこと。